

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☐ 4月4日提出	☐ 10月3日提出	☒ 3月14日提出	学校番号	19	高知丸の内	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ 目標をもち、「夢の実現」に向かって努力を継続することのできる生徒を募集します。 ○ 学習に真摯に取り組み、さらなる向上心をもった生徒を募集します。 ○ 多様な価値に対する寛容さと他者の人格を尊重することのできる生徒を募集します。 ○ 地域社会に関心をもち、貢献しようとする意欲をもった生徒を募集します。			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 単位制の特色を生かし、個々に応じた教科横断的な学びを実施します。 ○ 論理的思考力を育む取組を実施します。 ○ 探究活動の推進と発信力の育成を推進します。 ○ 3年間を見通した計画的な進路指導を実施します。 ○ 思考・判断・表現力の育成を意識した教育活動の実践を推進します。							
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 幅広い教養と豊かな人間性を育成します。 ○ 主体的に学習に取り組む態度を育成します。 ○ 仲間と協働して社会貢献する力を育成します。 ○ 基本的な生活習慣を身につけ行動できる力を育成します。 ○ 自分の人権を守り、他者の人権を守るための意識や態度を育成します。		【学力の向上】 評価 【 A 】保護者から「学校評価アンケート」への回答 【「夢の実現」に向けた進路指導の充実】 肯定的評価の割合 ※() は、←R5年度←R4年度 問13 授業への満足度 74% (←80%←81%) 問14 教材研究や教え方の工夫 78% (←82%←85%) 問15 進路希望に応じた選択科目 81% (←83%←86%) 問16 基礎学力を含めた学力向上の取り組み 81% (←83%←84%) 問24 補習や模擬試験など受験に必要な実力養成 85% (←85%←86%)								
			【社会性の育成】 評価 【 A 】保護者から「学校評価アンケート」への回答 【豊かな人間性の育成】 肯定的評価の割合 ※() は、←R5年度←R4年度 問18 社会のルールやマナーを守る態度の育成 86% (←86%←90%) 問19 部活動の大切さを意識する機会の設定 69% (←72%←72%) 問20 人権を尊重する意識の育成 75% (←80%←85%) 問25 学校行事の充実 93% (←92%←94%)								
		【チーム学校】 評価 【 A 】保護者から「学校評価アンケート」への回答 【チームで取り組む協働体制】 肯定的評価の割合 ※() は、←R5年度←R4年度 問4・7・8 学校満足度 92% (←93%←90%)・83% (←88%←83%)・71% (←77%←75%) 問11 学校の情報提供 84% (←80%←93%) 問28・30 健康、安全に関する取組 75% (←77%←75%)・78% (←78%←75%) 問29 生徒支援に関する取組 71% (←72%←69%)									

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

			育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標 (評価指標)	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上		★主体的に学び続ける姿勢と基盤の育成 ○ 目的と目標を設定する力 ○ 基礎的・基本的な知識及び技能 ○ 思考力、判断力、表現力(発信力) ○ 主体的に学習に取り組む態度(自ら学ぶとうとする力、探究する力、学習習慣を含む)	○C層以上の生徒の増加 ・1年: (R51年4月)97.4 % →(R61年11月)98% ・2年: (R51年4月)97.4 % →(R61年4月)98% ○授業外学習時間の増加 2時間以上 100人以上 (R5 51人), ほとんどしない 15人以下 (R5 33人) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 県オリジナルアンケート問14の肯定的回答、3学年とも90%以上 (R5第2回 3年88.8%, 2年89.1%, 3年87.6%) ○大学合格者 国公立大・難関大 30名以上 (R5 31名) ○論理的な思考から自分の意見を根拠を示して表現できる 第3回論述力検定で評価A以上 60% (R5 55.8%)	1 論理コミュニケーションによる論述力、発表力の育成 2 キャリアパスポート、まる手帳の活用による目標の明確化と生徒の自己調整力の育成 3 探究活動の推進と発信力の育成 4 ループブリックによる評価やICTの活用等、授業改善の推進による思考・判断・表現力の育成 5 読書週間の設定 6 「すらら」等を活用した自主学習と連動した授業、定期的な課題の提供と小テストの実施 7 「夢の実現」に向け、3年間を見通した計画的な進路指導 8 学習支援員事業等を活用した、D層の生徒の指導	B ○C層以上の生徒は、1年は昨年度入学生より8.5%減少し、2年は1年のときより5.7%減少 ・1年: (R51年4月)97.4 % →(R61年4月)88.9% ・2年: (R51年4月)97.4 % →(R62年4月)91.7% ○授業外学習時間は昨年度に比べて増加 2時間以上 : 64人 (R5 51人), ほとんどしない :15人 (R5 33人) ○将来のための勉強をしている生徒の割合は増加 県オリジナルアンケート問14の肯定的回答、R6第1回 3年92.0%, 2年87.1%, 1年91.7%) ○国公立大・難関大志望者58名と増加 (9月末現在) ○論理的な思考から自分の意見を根拠を示して表現できる 第1回論述力検定は評価A以上11%だから、今後の取組により増加の見込み	A 1 論述力を向上させるよう、人口減少について取り上げ、講師と連携しながら進めていく。 2 キャリアパスポート、まる手帳の活用を推進していく。 3 探究活動を推進するとともに、プレゼンする方法等発信力を育成する。 4 ICTの活用、対話的・協働的な深い学びができるよう、授業改善を推進推進する。 5 まる読オピニオン (NIE)、まる読週間 (読書週間)の取組を充実させる。 6 「すらら」等を活用した自主学習と連動した授業や、課題や小テストを実施していく。 7 「夢の実現」に向け、大学見学や講演等を行い、3年間を見通した進路指導を行っていく。 8 学習支援員事業等を活用した、D層の生徒への指導をさらに行う。	A ○C層以上の生徒は、1年は入学時より4.2%増加し、2年は4月より0.9%より増加 ・1年: (R51年4月)97.4 % →(R61年4月)88.9%→(R61年11月)93.1% ・2年: (R51年4月)97.4 % →(R62年4月)91.7%→(R62年11月)92.6% ○授業外学習時間は昨年度に比べて増加 2時間以上 : 64人 (R5 51人), ほとんどしない :25人 (R5 33人) ○将来のための勉強をしている生徒の割合は増加 県オリジナルアンケート問14の肯定的回答、R6第2回 3年93.2%, 2年89.6%, 3年91.3% ○国公立大・難関大合格者44名と増加 ○論理的な思考から自分の意見を根拠を示して表現できる 第3回論述力検定で評価A以上は61.4% (R5 55/8%)と増加している。	●授業改善として、見方・考え方を鍛えるために整理・形成・再構築のサイクルを取り入れる。 ●観点別評価と5段階評定の見直しを行い、学習意欲の向上に努める。 ●ICTの活用やベア・グループ学習での発表活動など授業改善を行い、主体的に学習に取り組む生徒を育て、学力の向上につなげていく。 ●論理コミュニケーションで身に付けた知識・技能を、国公立大学受験等の小論文や面接に活かし、合格者を増加させたい。
			★主体的に行動する力 ○ 「時を守り、場を清め、礼を正す」凡事の徹底 ○ 他者への思いやりと、地域や社会に関心をも、仲間と協働して社会貢献する力 ○ コミュニケーション能力(かかわる力、伝える力) ○ キャリアデザイン能力 (やりぬく力)	○ ループブリックの基本的な生活習慣関係項目 90%以上 ○ 県オリジナルアンケート (R5の到達率) 問19「社会をよくするために考える」 3年 80% (78.4%) 2年 65% (60.7%) 1年 55% (53.3%) 問22「入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があった」 3年 80% 2年 65% 1年 50% ○ 心の指標アンケート(R5の到達率) 問④「失敗を恐れず挑戦」75%以上 (65.5%)	1 ベル着や掃除の徹底、挨拶の励行や正しい制服の着こなし指導の継続 2 互いが協力して目標の達成を喜び合う学校行事や生徒会活動の実施 3 感染症対策を取りながらできるボランティア活動、地域と連携できる活動の実施 4 徐々に手を放し、自主・自律を促して社会への参加を意識付けさせる生活指導	A ○ ループブリックの基本的な生活習慣関係項目 90%以上であり、大部分の生徒が基本的な生活習慣は確率している。 ○ 県オリジナルアンケートの結果から、社会性は向上している。 問19「社会をよくするために考える」第1回 3年 70.9% 2年 59.7% 1年 61.2% 問22「入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があった」第1回 3年 73.5% 2年 61.8% 1年 53.3% ○ 心の指標アンケートは、昨年とほぼ変わらない。(R5の到達率) 問④「失敗を恐れず挑戦」第1回 64.2% (65.5%)	B 1 ベル着や掃除の徹底、挨拶の励行や正しい制服の着こなし指導等、教科担当、ホーム担任と連携しながら進めていく。 2 文化祭等、互いが協力して目標の達成を喜び合う学校行事や生徒会活動の実施していく。 3 ボランティア活動、地域と連携できる活動のさらに増やしていく。 4 交通安全指導、愛校活動等社会への参加を意識付けさせる生活指導をしていく。	B ○ ループブリックの基本的な生活習慣関係項目 90%以上であり、大部分の生徒が基本的な生活習慣は確率している。 ○ 県オリジナルアンケートの結果から、第1回より社会性は向上している。 問19「社会をよくするために考える」第2回 3年 72.0% 2年 60.7% 1年 70.4% 問22「入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があった」第2回 3年 77.4% 2年 69.0% 1年 72.3% ○ 心の指標アンケートは、昨年とほぼ変わらない。(R5の到達率) 問④「失敗を恐れず挑戦」第2回67.92% (65.5%)と増加	●ループブリックによる自己評価等を活用し「時を守り、場を清め、礼を正す」凡事の徹底を継続して指導する。 ●社会に貢献したいとの意識はあるが、行動につながっていない。「考えた」ことを「実際に行動する」ための手だてをしていく。 ●仲間と協働する学校行事や地域と協働した活動を通して、立案・実施することによって社会性を育成する。
取組項目	地域協働学習		【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○ 県オリジナルアンケート (R5の到達率) 問21「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している」 3年 65% (59.0%) 2年 50% (43.2%) 1年 40% (35.7%)	1 ボランティア活動(防災活動、地域の活性化等)への積極的な参加 2 公立2大学との連携した事業計画の立案・実施 3 高大連携事業に参加する生徒の増加	A ○ 県オリジナルアンケート (R5の到達率) 問21「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している」第1回 3年 70.9% (59.0%) 2年 46.0% (43.2%) 1年 61.2% (35.7%) 地域協働活動に関して行動できている。	A 1 ボランティア活動(愛校活動、交通安全指導、防災活動、地域の活性化等)への積極的な参加を推進する。 2 高知県立大学との連携した事業を計画し、12月に実施する。 3 高大連携事業への参加を生徒に推進する。	A ○ 県オリジナルアンケート (R5の到達率) 問21「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している」第2回は増加 3年 84.0% (59.0%) 2年 62.7% (43.2%) 1年 46.5% (35.7%) 地域協働活動に関して行動できている。	●地域と協働した活動を通して、立案・実施することによって社会性を育成する。 ●地域や高知県立大学や高知工科大学等との連携を進めていく。
			【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けける力の育成	○ 県オリジナルアンケート (R5の到達率) 問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする」 3年 90% (89.6%) 2年 97% (96.8%) 1年 95% (90.5%) ○論述力検定で評価A以上 (R5の到達率) 第1回 15% (13.3%), 第2回 33% (29.4%), 第3回 60% (55.8%)	1「総合的な探究の時間」で、ICTを活用して論理的な思考力を育む 2 授業改善検討委員会、教科や教師と生徒の枠を越え、より良い学びを共に考える 3 まる読オピニオンや読書活動から、新たな情報を元に自分の意見をもつ	A ○ 県オリジナルアンケート (R5の到達率) 問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする」 3年 90.3% (89.6%) 2年 92.1% (96.8%) 1年 90.3% (90.5%) ○論述力検定で評価A以上 (R5の到達率)は、昨年度より若干減少している。 第1回 11% (13.3%)	A 1「総合的な探究の時間」で、一人一台タブレットを用いたグループ活動、探究の成果物の作成や発表を実施し、探究活動を深め、論理的な思考力を育む。 2 授業改善検討委員会において、第1回、第2回と議論を積み重ねられるよう準備をし、より良い学びを共に考える場にする。 3 まる読オピニオンや読書活動から、新たな情報を元に自分の意見をもつ生徒を育成する。	A ○ 県オリジナルアンケート (R5の到達率) 問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする」 第2回は3年 91.8% (89.6%) 2年 98.0% (96.8%) 1年 92.7% (90.5%)と増加している。 ○論述力検定で評価A以上 (R5の到達率)は、昨年度より若干増加している。 第1回 11% (13.3%) 第2回 30.9% (29.4%) 第3回 61.4% (55.8%)	●「総合的な探究の時間」における課題探究活動を、各教科の学びと関連付けができるような従業を実践する。 ●論理コミュニケーションで身に付けた知識・技能を活かした表現活動を、各教科で実践していく。

			取組のねらい【P】	現状と目標 (評価指標)	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興		★学校の魅力化 ○音楽科の取組の充実 ○部活動の更なる活性化 ○PTA、同窓会、県立大・工科大などとの「縦と横」の連携の充実 ○ホームページやSNSを活用した情報発信	○現状課題 部活動での県大会優勝や全国大会出場、音楽科の各種コンクールの金賞受賞・個人の上位入賞などの実績が、知られていない。 ○具体的な目標 ・音楽科の志願者 20名 ・部活動の加入率 75%以上 ・実績ある文化系・体育系部活動を充実させ、全国レベルの大会での上位入賞	1 定期演奏会やコンクール出場などの音楽科活動の情報発信と、生徒募集に向けた体験入学や中学校訪問等への取組 2 部活動指導員などの外部人材の活用等による活性化 3 PTAや地域と共同した学校行事の実施 4 県立大・工科大との連携事業 5 SNSで学校や生徒の様子を、時間を置かず発信	A ○中学校での説明会や音楽科生徒の演奏により、一日体験入学参加者650名 (R5:578名)、内音楽科33名 (R5:18名)と増加 ○部活動の加入率72.7% ○カヌー部・四国大会10名個人出場し入賞 女子総合3位 全国総体出場 弓道部:四国大会個人1名 音楽科の全国総文祭への参加	A 1 定期演奏会やコンクール出場などの音楽科活動の情報発信と、生徒募集に向けた体験入学や中学校での演奏の取組を行う。 2 部活動指導員などの外部人材の活用等による専門的な指導により部活動を活性化させる。 3 PTAや地域と共同した愛校活動や文化祭等への参加を推進する。 4 高知県立大学との連携事業を計画し、12月に実施する。 5 SNS等での配信より、学校や生徒の様子を随時発信していく。	A ○中学校での説明会や音楽科生徒の演奏により、A日程志願者普通科203名 (定員150名)、音楽科12名 (定員30名)と昨年度より増加 ○部活動の加入率72.7% ○カヌー部・四国大会10名個人出場し入賞 女子総合3位 全国総体出場 弓道部:四国大会個人1名 冬季大会女子団体優勝 全国選抜大会出場 音楽科の全国総文祭への参加	●音楽科の活動を、学校HPや公式SNSを活用して積極的に校外に発信し、志願者増加につなげる。 ●部活動での成果を、校内表彰や校外へへの情報発信を通して、参加率を上げる。 ●PTA、同窓会、地域、高知県立・高知工科大学等と連携し、教育活動への理解と協力を継続していく。
			★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 教職員間の意思疎通が図れる良い職場環境である。生徒・保護者対応に加えて補習や部活動に費やす時間が多く、余裕のない業務を行っている。 ○具体的な目標 ・校内研修の実施回数:12回 ・不祥事防止委員会の実施回数:12回	1 一個人に業務の負担がかからないようにする。 2 職員会議では必ず不祥事防止のため、教職員が取り組むべき事項の確認を行う。 3 運営委員会での分掌・学科・学年からの状況報告から、事が起こる前に早期に対処策を共有する。	A ○教職員間の意思疎通は図れている。生徒・保護者対応に加えて補習や部活動に費やす時間が多く、余裕のない状況である。 ○校内研修や委員会の月1回の実施により、不祥事防止に対する教職員の意識は向上している。 ・校内研修の実施:6回(9月末まで) ・不祥事防止委員会の実施回数:6回(9月末まで)	A 1 個人情報の取扱いについては、最善の注意を払う。 2 校内研修会では具体的な事例を挙げ、教職員が意見を出し合うことで、不祥事防止への意識を高める。 3 分掌・学科・学年からの状況報告から、事が起こる前に早期に対処策を共有する。	A ○教職員間の意思疎通は図れているが、生徒・保護者対応に加えて補習や部活動に費やす時間が多く、余裕のない業務を行っている。 ○不祥事防止委員会や校内研修を毎月実施し、チェックシートや事例検討等も定期的に実施し、不祥事防止に努めた。 ・校内研修の実施回数:13回 ・不祥事防止委員会の実施回数:20回	●業務に関して、校内で共有のマニュアルを作成し、複数でチェックをするシステムをさらに強化していく。 ●不祥事防止研修により、自分事ととらえる意識改革をしていく。
	働き方改革		★長時間勤務の解消 ○分掌や教科で時短につながる業務内容を見直す ○部活部指導員を活用した時間外業務の削減	○現状課題 年度始めと終わり、大学受験前の指導、週休日部の活動等で時間外勤務が多くなる。 一人に過度な負担がかかる業務分担が固定化している。 ○具体的な目標 ・繁忙期に時間外勤務を短縮する業務の効率化 ・業務を常に複数で行う組織と計画を作る。	1 時間外勤務を前提とした一日の業務計画を立てない。 2 時間外勤務時間が通算で360時間を越えた翌月から、時間外の諸活動を制限する。 3 指導者を複数名配置する部活動では、週休日に全員が指導にあたる活動をしない。	B ○年度始め、週休日の部活動、大学受験の指導等で時間外勤務を図る。 ○業務を常に複数で行う組織づくりと業務の見直しをしている。 ○45時間以上の時間時間外勤務社は4月15名から、8月、9月は1名に減少している。	B 1 自動採点システム等ICTを活用することにより、業務の効率化を図る。 2 業務の削減できることを見直ししていく。 3 指導者を複数名配置する部活動では、週休日に全員が指導にあたる活動をしない。	B ○働き方改革に関する研修を行い、情報提供するとともに、個人面談で聞き取りをするなどして、適切な指導・助言を行ったが、年度始めと終わり、大学受験前の指導、週休日の部活動等で時間外勤務が多くなった。 月45時間以上の時間外勤務(月平均6名程度) ○業務を常に複数で行う組織作りを行った。	●自動採点システムやグループウェアを活用し、業務の効率化を図る。 ●業務内容を見直すとともに、複数で対応する。 ●部活動指導員や学習支援員の継続した活用をする。